

センバツ

# 32校の横顔

▶①

第88回選抜高校野球大会  
(20日から12日間・甲子園)  
に出場する32校を紹介す  
る。

▽札幌第一(北海道) Ⅱ  
初出場

エースで主将の上出が大黒柱。1.803の長身から力のあるボールを投げ、昨秋は9試合で66回を投げて防御率1.23と高い安定感を誇る。打線は宮沢、辻が出塁し、犠打を絡めて手堅く攻める。中軸の長門、高階は長打力も備える。夏は3度甲子園に出場しているが、春は初出場。白星を狙う。

▽青森山田 Ⅱ11年ぶり2  
度目

バッテリーを中心とした守りの野球で昨秋の東北大会を制した。主戦右腕の堀岡は威力のある直球が武器。坪井や、左腕の三上らも控えており層は厚い。失策は13試合で5と守りは安定している。打線には派手さはないが、犠打を多用して、1番から9番までのつながりで相手を揺るがせて点をもぎ取る。

▽八戸学院光星(青森) Ⅱ3年連続9度目

## 悲願の初V目指す光星 守りの野球の青森山田

チーム打率3割7分6厘 年ぶり4度目  
の強力打線が持ち味だ。中軸に座る田城は打率5割4分台と打ちまくり、盗塁も7と機動力も備える。主砲益田は4本塁打をマークし、勝負強さも光る。投手陣は強気の投球で押す桜井が引っ張り、2番手には和田が控える。11年夏から3季連続準優勝。悲願の初優勝を目指す。

▽常総学院(茨城) Ⅱ2年連続9度目

昨春の選抜で8強入りに貢献した左腕鈴木と右腕樫村が残る。ともに140キロ超の直球が武器で、鈴木は昨秋5試合で40回を投げて防御率0.89と驚異的な数字を残した。チーム打率は3割に満たないが、2年生で4番を務める宮里は5割を超える高打率を誇る。機動力のある選手が多く、小技を絡めて攻める。

▽桐生第一(群馬) Ⅱ2年ぶり5度目

9試合で19盗塁をマークした機動力が持ち味。打線に切れ目はなく、1番迫川、2番高田が出塁して主砲の楠木がかえすのが得点パターンだ。犠打も多用する。投手陣は左腕内池、右腕で下手投げの青木とタイブの異なる2人がいる。捕手の高田を中心としたセンターラインの守備にも自信を持つ。

▽花咲徳栄(埼玉) Ⅱ3年連続9度目

▽関東第一(東京) Ⅱ2年ぶり6度目  
オコエ(栄太)を擁して夏に4強入りした旧チームのレギュラーはいないが、攻撃力で昨秋の東京大会を勝ち抜いた。上位打線がしっかりと出塁し、打率5割7分1厘の山室らが走者をかえす。下位打線も長打力を備え、つながりがある。投手陣は右腕の河合、竹井、左腕の佐藤奨と3人の継投になりそう。